

光野有次・吉川和徳(著)

シーティング入門

—座位姿勢評価から車いす適合調整まで—

廣瀬秀行

国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所福祉機器開発部

介護予防は車いすを否定している。しかし、現実には車いすを長時間使用する多くの高齢者がおり、褥瘡発生や生活の困難、そして身体拘束など多くの問題が起きている。しっかりと座位姿勢を考えなければならない方がいる。それについての基本的考えとその対応方法について、日本シーティングコンサルタント協会現理事長の吉川氏と車いす姿勢保持協会(現・車いすシーティング協会)前理事長光野氏が執筆した。シーティングの論客がそろったわけである。この本の特徴は要点を明確に記述していることであり、その点ではシーティングを行う際に、そばに置いておくことを推奨する。

第1部では、高齢者を中心に介護保険制度を念頭に、車いすおよび座位保持装置の評価および選択が解説され、ICFから始まり、介護保険制度の現状とその問題点を指摘している。この中で福祉用具の位置づけを主張し、福祉用具決定過程での現制度に基づいた各

専門職の役割を明示している。次に、座位評価から車いす選択や適合評価のプロセスを解説している。特に、車いす使用者スクリーニング用紙はぜひ、ケアマネジャーに使用していただきたいものである。最後に、座位評価の内容を一般情報、変形での考慮点、そしてマット評価について簡潔に解説している。

第2部は、製作者の立場から、まず、リハビリテーションが「いす」を顧みなかった時代から、脳性まひ者・児への座位を見つめてきた光野氏の座位への考えの基本であろう。次に、車いすの分類や車いすの性能に関する基礎的工学について、そしてハンドリングという人間の手と座位保持の機能の間で、対応に苦慮してきたであろう理学療法士と作業療法士の問題点をどのように乗り切るのか、特に、シミュレータは百聞は一見に如かず、の違いを示したのである。次に、脳性まひ者・児のモールドを中心とした製作方法が、最後は車いす座位保持装置の整備について解説している。

シーティングは骨盤と脊椎の運動学である。しかし、その姿勢を維持するのは装置であり、機器の限界を知ることが大切である。

●B5版 118頁 2007年 中央法規出版・刊

定価 1,890円(本体 1,800円+税 5%)